



滿洲建築協會雜誌

昭和七年九月十五日發行(每月一日)

南	大
滿	連
洲	醫
保	院
養	●
院	●
●	●
●	●
●	●
●	●
●	●
●	●
●	●

12 ● 9

社團法人滿洲建築協會發行

ホロータイル

フェイスブリック

礦滓カッタ

舗道煉瓦

スクラッチタイル

カッタタイル

機械製煉瓦

普通煉瓦

專賣特許 鐵筋煉瓦

營口煉瓦製造所

大連工場	大連市管内西山會三春柳一 電話九〇九七番
周水工場	大連市管内周水屯周家屯
大連出張所	大連市越後町二八 電話三九〇五番
馬車配給所	大連市財神街三 電話七七五八番

滿洲建築協會雜誌

第 12 卷
第 9 號

大連醫院・南滿洲保養院特輯

目次

卷頭圖版

大連醫院本館、分館、附屬建物
南滿洲保養院及附屬建物

挿入圖版

大連醫院本館各階平面圖
同上分館各階平面圖
同上看護婦宿舍各階平面圖
同上炊事場、動物室、屍室、機關室平面圖
同上配置圖
南滿洲保養院配置圖
同上本館各階平面圖
同上看護婦宿舍各階平面圖

記事

大連醫院の建築計畫及び其の設備の梗概……………岡大路…(1)
大連醫院の構造に就いて……………長廣勸一…(26)
サナトリウムの概念と南滿洲保養院……………南滿洲保養院長 遠藤繁清…(34)
南滿洲保養院新築工事設計概要……………(46)

會報

編輯後記……………石田生…

□大連醫院の紹介に就きましては、彼の病院が竣工しました當時「大連醫院建築紀要」といふ單行本を作る積りで半ば準備が出来たのでありますが、病院建築の重大要素たる各種の設備工事に關する方面の記事其他の資料の準備が思はしく進捗せず、次第に延々になり、最近では時效にかゝつた様な状態になつて、全く斷念的に經過して居りましたが、編輯部としては時折此の大きな不渡手形に對する義務を感じない譯には行きませんでした。

□然るに今回南滿洲保養院の工成るに及び、最近に於ける滿洲の大建築でもあり、且つ滿洲としては全く空前の計畫であり、内地としても未だ餘り類例のない建物でありますから、是非特輯的に紹介したいと願つてをりましたところ、是れも編輯子の思ふ様に準備が進みませんので、保養院だけでは特輯として聊かも足らぬ感がありましたので、偶々思ひ付いて、有り合せの資料だけで、此際大連醫院の借金拂をしようと考えた譯であります。

□右の次第で岡、長廣兩氏の大連醫院に關する記事は數年前に編輯部に提供されてゐたものを其儘使用したのであつて、其の執筆が何れも其の當時の委員として分擔された方面だけについて書かゝれたものであります。従つて特輯としては、兩院共に其の編纂準備が不徹底であります、此の上延ばしたところで、是れ以上に行届いたものが出来る様にも思はれませんので、これで我慢を願ふことに致しました。

□それにも不拘、兩院共に其の計畫上の要所要點につきましては、遠藤、岡、長廣さん等、直接の計畫者であり、擔當であつた方々の極めて懇切な御執筆によつて、面目を保持し得たことは感謝に堪へぬところであります。

□病院の圖版紹介に就いては平面圖の様なものは別として、何時も感ずることではありますが寫真版としての紹介は、醫療設備の施されない間の純粹の建物だけでは、何れも大小の差こそあれ殆んど一律に眞白な唯の室で、外觀其他の附帶設備以外には、こゝぞと思ふ様な箇所がありませんので、兎角淋しいものになりがちであります、然りとて純建築雜誌といふ立場から、醫療設備の紹介に深入りして行くのも如何かとも思はれ、且つ醫療設備までといふことになり、満足する様に取扱ふとすれば二百件以上にもなりますから、茲にまた經費の上の問題も伴つて來まして到底至難なことになつて來ます。それで、今回は若干醫療設備の方へも這入りましたが、大體の方針として建築そのものに比較的交渉の多い各室と、其他は餘り判然した理由はありませんが、此の程度の數量としては、外の箇所より此の邊がよからうといふ様な感じで採擇致しました。

□尙断面圖に就きましては原稿としての圖面が平面圖として使用した圖面に對し表示箇所の連絡がとれませんでしたのと、其他餘儀ない事由で割愛致しました。

昭和七年九月十日

石田生



大連醫院本館 正面概觀